



消費者志向自主宣言 2022フォローアップ

取組期間：2021年11月～2022年11月



株式会社日本有機四国

当社は、地域と地球の豊かな未来を創造し、
「人と、社会と、ともに喜び、ともに栄える」
共創社会をつくります。

その実現のため『有機性廃棄物を受け入れて
資源に再生する』地域の循環型社会構築事業
者としてダイナミックでアグレッシブなチャ
レンジを続け、社会と共有価値の創造に努め
持続可能な社会への貢献します。

1・経営トップのコミットメント

■地域のために会社はあり、会社は地域とともに栄える■

当社事業精神の「明日を鑑みて今日に尽くす」のもとに定めた経営理念は「誠実奉仕を旨とし、浮利を追わず、堅実経営をするべし」であり、創業以来の理念経営を続けてまいりました。今後におきましても明日を鑑みて今日に尽くし『すべてのステークホルダーの満足度増大』を実現する企業であり続けます。

2・未来・次世代のために取り組むこと

1) 地域循環共生圏の推進

食品の廃棄物排出事業者と連携し「食の循環サイクル数」を増加させ、高品質な有機質肥料で慣行栽培からの脱却を訴求してまいります。

2) 地下資源の保全

有機質肥料の市場提供を通じ土壌と地下資源の保全支援をします。

3) 飢餓のない世界支援

COERUを通してエシカル消費を提唱し、一連の取り組みの中で飢餓のない社会づくりに支援します。

Ⅲ：2022フォローアップNo1



消費者
志向経営



えひめ消費者志向
おもいやり経営



ローカルSDGs四国

いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

取り組みテーマ

食の循環サイクル構築数の拡大

到達課題

食資源をコアとした地域循環共生圏の構築

SDGs目標No11



住み続けられるまちづくりを

P

新BtoB型循環サイクルで持続的な有機質成分肥料を製造し安定した食資源の循環化を図る

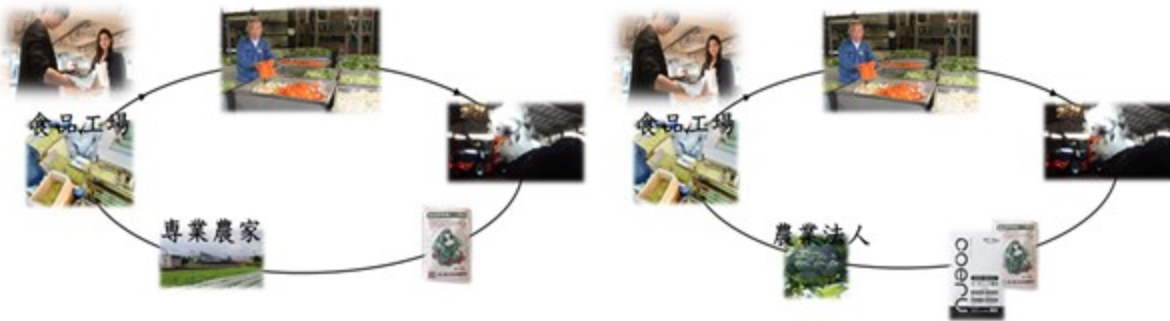
D

得たい原料を、得たい時に、得たい量だけ、収集する「新型循環構造」を市場提供する

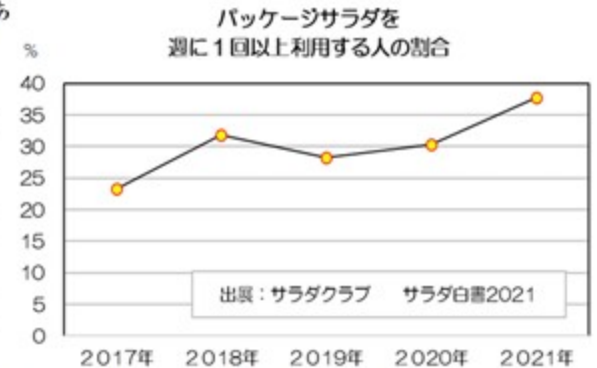
1: 既存の循環(下記A)では狙いとする肥料成分を得にくく、原料全体に占める特異原料を収集し、
有機質肥料の特性を一層引き出す、循環サイクルを構築する

A=従来型循環

B=新型循環



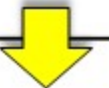
1: 当社受入主原料は大手コンビニ傘下食材工場からの収集分である
2: 時代の趨勢からコンビニでのサラダ販売は増加傾向にあ



3: 当社肥料納入先にはブロッコリ生産を主体とした生産農業法人あり(≒34町歩栽培(=34万㎡))

循環軸1: 生産農業法人 有機質肥料施肥しブロッコリ生産と食材工場への納品
循環軸2: 大手コンビニ傘下食材工場 調理・加エミス、FSSC規格外れ食品廃棄物
循環軸3: 当社にて廃棄物受入と有機質肥料製造

狙い適合



Ⅲ：2022フォローアップNo1



消費者
志向経営



えひめ消費者志向
おもいやり経営



ローカルSDGs四国

いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

取り組みテーマ

食の循環サイクル構築数の拡大

到達課題

食資源をコアとした地域循環共生圏の構築

SDGs目標No11

住み続けられるまちづくりを



A

地域給食センターを核とした行政型新循環構造への横展開

1: 新たなチャネルとして「行政型循環」構造を構築する



米西条市では令和7年に東部給食センター開所が予定されている

2: 産官型の推進による地域循環共生圏意識高揚を目指す



C

狙いとする「新BtoB型循環」構築は機能しているか？

1: 新循環サイクル構造

新循環サイクル概要



新循環軸の構成図



- 2: 狙い結果
- 1) 農業法人 … 従来化成肥料より安価で肥効高く取り組み成果大である
 - 2) 食材加工工場 … 安定的な供給力あり消費者のニーズにも適合している高材
 - 3) 当社の処理、肥料製造 … 肥料化までおよそ6か月、狙い成分まで分析結果待ち

Ⅲ：2022フォローアップNo2



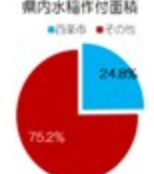
取り組みテーマ

慣行栽培脱却提唱・・・「農産物生産の脱炭素化」


到達課題	SDGs目標No13	
食資源をコアとした地域循環共生圏の構築	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動に具体的な対応

P 持続的な地下資源の保全を図り、結果として脱炭素化をする

1:「水の郷」西条市は、経営耕地面積が四国一の広さを誇り、県下一の収穫量を誇る水稲、ほうれん草きゅうり、アスパラガスや果樹など多くの農作物を供給する生産都市となっている。※一部西条市広報引用

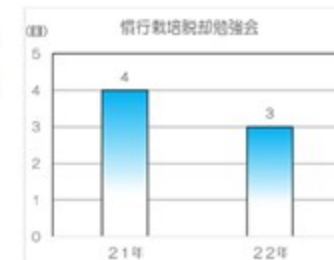




2: 農水省策定「みどりの食糧システム戦略」では、農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現とあり、具体的には化学農薬の使用量50%低減を目標としている。




D 有機質肥料施肥による慣行栽培からの脱却を提唱し賛同を得る

1: 地域専業農家に、農水省の「みどりの食糧システム戦略」を実践提唱(説き)し、提唱(説き)し、ご理解と賛同を得るようコア農家と勉強会を開催(前提:有機質肥料無償提供)


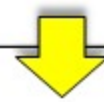


2: 西条市三芳町地内専業農家から賛同を得て、21年「稲作」にて実証、22年「里芋」にて実証を実施した

稲作・・・「こしひかり」を1反(≒1,000㎡)にて実証
COERU施肥量=75kg(5袋)



里芋・・・「伊予美人」を1反4畝(≒1,400㎡)にて実証
COERU施肥量=75kg(5袋)

Ⅲ：2022フォローアップNo2



消費者
志向経営



えひめ消費者志向
おもいやり経営



ローカルSDGs四国

いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

取り組みテーマ

慣行栽培脱却提唱・・・「農産品生産の脱炭素化」

到達課題

食資源をコアとした地域循環共生圏の構築

SDGs目標No13



気候変動に具体的な対応

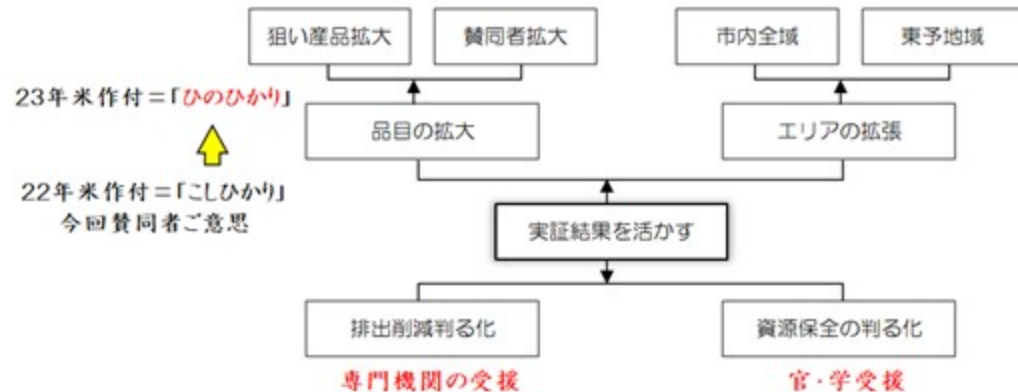
A

慣行栽培脱却提唱継続と賛同者の拡大

1: 当社のパーパス 『地域のために会社はあり、会社は地域とともに栄える』

- 慣行栽培脱却供与肥料として増産検討
- 賛同者の理解、実証、成果のご実感を賜れた
- 慣行栽培脱却賛同者の拡大を図る・・・行政ご支援

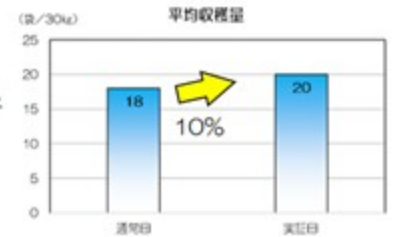
2: 慣行栽培脱却で持続可能な地域農業を確かなものにする



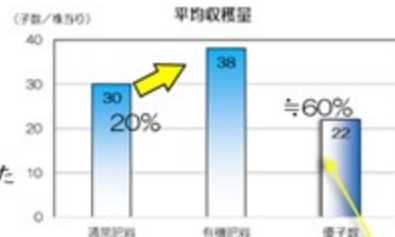
C

有機質肥料COERU施肥による実証結果

1: 稲作 言語データ・・・1) 田植え直後の「根付き良好」であった
2) 途上の生育状況は周囲田よりも良好であった
数値データ・・・1) 生育度合は10%程度よかった(周囲比)
2) 収穫量も生育同様10%程度多かった



2: 里芋 言語データ・・・1) 生育途上でも近隣農家栽培比勝っていた
数値データ・・・1) 収穫量は20%程度多かった(従前比)
2) 子の優率も高かった(従前比)
※言語データになるが従前はバラツキ大であった



3: 狙い結果 1) 生育(収穫)状況は想定通りの結果が得られた
2) 地下資源の保全については実績収集不可(経年後)
3) 営農の脱炭素化、二酸化炭素排出削減量、試算中

収穫のうち伊予美人が最
適とされる大きさの子数

Ⅲ：2022フォローアップNo3



消費者
志向経営



えひめ消費者志向
おもいやり経営



ローカルSDGs四国

いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

取り組みテーマ

廃棄物を活かしてつかうアップサイクル化

到達課題

食資源をコアとした地域循環共生圏の構築

SDGs目標No12



つくる責任使う責任

P

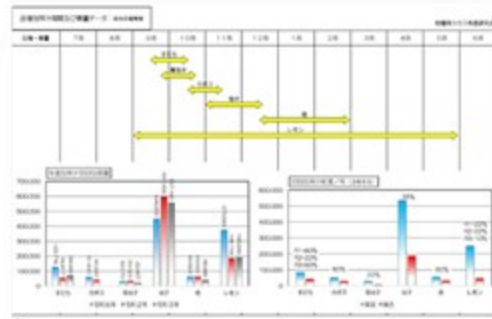
柑橘搾汁カスの「アップサイクル」化へ可能性探求

1: 柑橘王国えひめ、その柑橘を搾汁し多用途にアップサイクルし商品化する事業者が2社あり

西条市: 有限会社今井青果「≒900t/年」、

新居浜市: 愛媛果汁飲料株式会社「≒500t/年」(何れも搾汁前質)

参考実績(例)今井青果分



当社

2: 搾汁カスには種子を含み単に廃棄物処理は不可である

特に搾汁数量の多い「柚子」種子含有は廃棄物中30%含有



搾りカス

有償品への転換

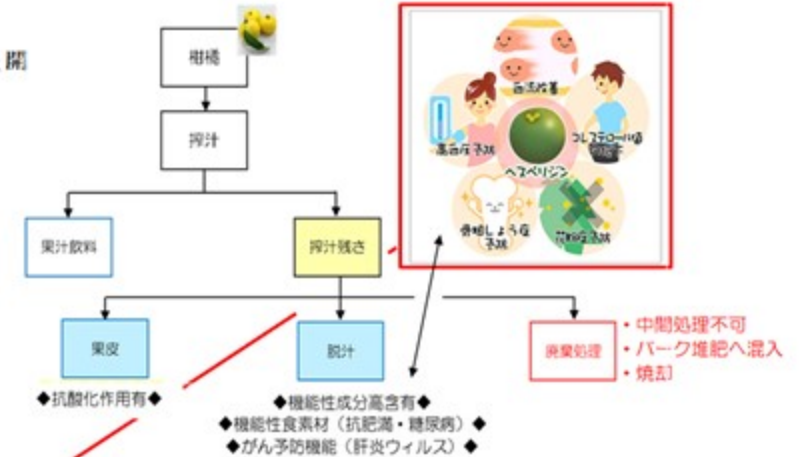
中間処理による肥料化

廃棄物処理
アップサイクル

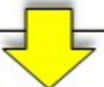
D

アップサイクルロードをアナライズする

1: 活かしてつかう路を探る、特性展開



2: 活かしてつかう路を探る、特性展開



Ⅲ：2022フォローアップNo3



消費者
志向経営



えひめ消費者志向
おもいやり経営



ローカルSDGs四国

いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

取り組みテーマ

廃棄物を活かしてつかうアップサイクル化

到達課題

食資源をコアとした地域循環共生圏の構築

SDGs目標No12



つくる責任使う責任

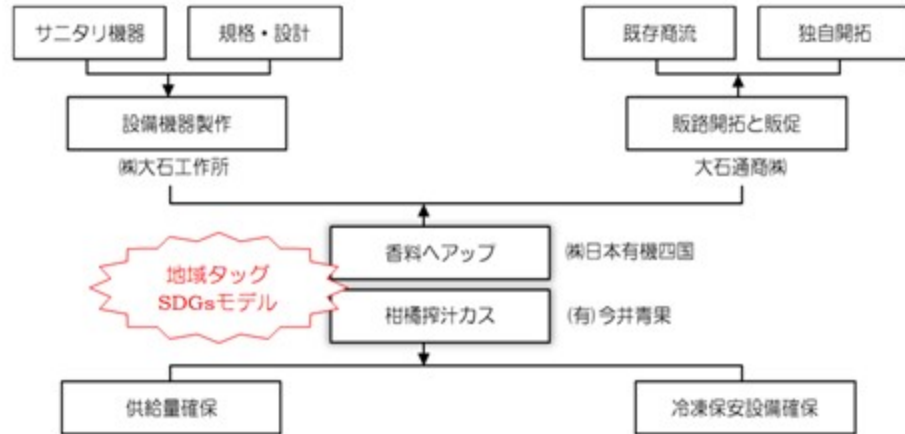
A

アップサイクル(香料)を当社グループで担い地域貢献を果たす

1: 当社のパーパス 『地域のために会社はあり、会社は地域とともに栄える』



2: 地域とともに、、、実現機能分担図

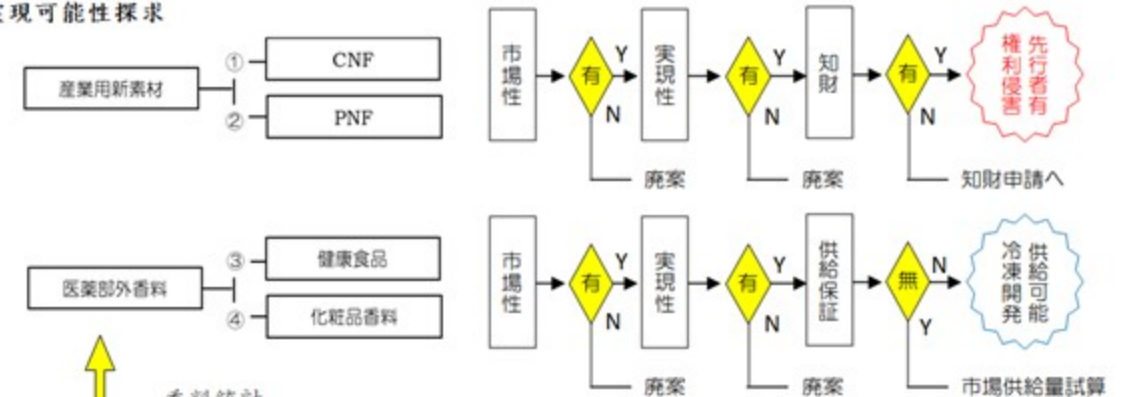


地域タッグ
SDGsモデル

C

機能展開の「路」につき実現可能性とご支援部署の探求

1: 実現可能性探求



香料統計

表1 1年以内香料統計資料 (単位: 億円)

種類	区分	2017年 (H29年)	2018年 (H30年)	2019年 (R1年)	2020年 (R2年)	2021年 (R3年)
国内生産	天然香料	数量 549	623	638	584	600
	金額	2,978	3,193	3,209	3,279	2,628
合成香料	数量	10,533	9,351	10,728	10,204	9,453
	金額	21,997	22,131	27,158	31,608	30,516
調剤香料	数量	46,321	47,961	48,201	46,296	46,174
	金額	122,331	130,466	127,776	126,595	130,779
香料原料	数量	7,025	7,377	7,401	7,499	8,095
	金額	20,191	21,177	20,300	22,188	23,813
合計	数量	64,418	65,312	66,968	64,583	64,322
	金額	167,497	176,967	178,445	185,670	187,736

質量は横ばい傾向
17年：21年比金額は+12%増加

出展：日本香料工業会



消費者志向自主宣言 2023フォローアップへ

2023年12月



株式会社日本有機四国